

令和7年度学校自己評価システムシート（県立所沢北高等学校）

目指す学校像	たくましい知性としなやかな感性を備え、高い倫理観とグローバルな視野を持って、地域や社会の持続的発展に貢献しようという高い志を有するリーダーを育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 確かな学力と自立する力の育成に向け、ICTを効果的に活用した不断の学習・授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組む態度や探究的に学ぶ習慣を育み、生徒一人一人の進路希望実現を支援する。 豊かな心と健やかな体の育成に向け、自律的に生活する力や他者と尊敬し合える関係を築く力を身に付けさせ、社会を支える資質・能力の基礎を育む。 社会に開かれた教育課程の実現に向け、家庭・地域との協働、国際交流や大学等との連携を充実させる。 SSH指定校として、科学的で探究的な学習活動を推進し、地域の理数教育を牽引する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価						
年度目標						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成 次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 生徒一人一人の確かな学力の育成と進路希望の実現に向け、教員、生徒、保護者が協力して取り組んでいる。昨年度は、東京大学、北海道大学、東北大学、東京科学大学等の難関国立大学に加え、信州大学の医学部医学科、金沢大学及び静岡県立大学の医薬保健学部等への合格者を輩出した。</p> <p>【課題】 自学自習時間を確保できない生徒の現状に正対し、学校全体で効果的な指導に取り組んでいく。また、教育活動全体で在り方生き方を考えさせる機会を創出し、ICTを活用した教科横断・融合型実践を通じて教師同士が互いに学び合い、高め合う学校文化を実現することが求められている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の在り方生き方と関連付けた教科横断的な「探究的な学び」を実現する。 生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 自律（自立）的学習者の育成に向け、生徒のセルフマネジメント能力等を育成する。 互いに学び合い、高め合う教員集団、学校文化を形成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 「探究的な学習活動」と進路希望の実現をつなげていく。(通年) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的な活用や学習評価の見直し・改善を行う。(通年) 各分掌・学年による意識づけや、各教科等において課題設定を工夫するとともに、部活動等においても啓蒙を行う。(通年) 一人一台 iPad を利活用した授業や教科等横断・融合型授業を互いに情報共有し、フィードバックし合う機会を創出する。(通年) 	<ol style="list-style-type: none"> 自らの在り方生き方や進路希望と「探究的な学習」を関連付けた生徒の割合7割以上。(生徒アンケート) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現した生徒の割合9割以上。(生徒アンケート) 平日学年+1H、休日学年+3Hの自学自習時間を確保できた生徒の割合5割以上。(生徒アンケート) 互見授業の頻度やフィードバックの回数等(前年度比) 	<ol style="list-style-type: none"> ①探究活動が主体性や協調性、学ぶ意欲の向上につながると感じている生徒は62.9%、保護者は70.1%。また、生徒が家庭でも主体的に学習に取り組んでいると回答した保護者は75.1%であった。 ③平日学年+1Hの自学自習時間を確保できた生徒の割合は、22.3%、休日4時間以上の学習時間を確保できた生徒の割合は、35.3%であった。 ④教科等横断・融合型授業は、内容を改善しながら進めている。研究授業や授業観察などを適宜実施した。なお iPad を効果的に活用できていると回答した生徒は94.8%であった。 その他 ・年間補習講座開講数延べ74講座 ・適切な進路指導がされていると回答した生徒は88.9%、保護者79.4%。 	<p>B B B A</p> <p>●課題 ・「探究的な学習」が主体性や協調性、学ぶ意欲の向上につながると感じている生徒は約6割であった。学ぶ意欲や主体性を養う取組をさらに工夫・企画していく。 ・今後も自学自習時間を確保できる生徒の割合を増加させる。</p> <p>◎改善策 ・探究活動に係る特定の科目だけでなく、教育活動全体でセルフマネジメントできる能力を育成する。 ・各教科・学年・分掌等の連携・協働による自学自習時間の増加に向けた取組を推進する。 ・適切な進路指導を継続する。</p>
2	<p>【現状】 基本的生活習慣の確立や学校行事等への主体的な参加に向けて、生徒指導部、保健環境部、各学年、各部活動等が連携・協力し、生徒支援を行っている。</p> <p>【課題】 様々な場面で生徒にリーダーシップを発揮させる機会をより多く創出することが課題である。また、生徒一人一人の状況に応じた木目細やかな支援を行う必要がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 高い規範意識を持って自主的・自律的に学校生活を営む資質・能力を育成する。 自他を尊重する社会性を身に付け、リーダーシップを発揮できる資質・能力を育成する。 SC などを活用して生徒の多様な状況に対応できる組織的な支援体制を構築する。 	<ol style="list-style-type: none"> 安心・安全な学校生活や充実した行事を運営できるよう指導・支援する。(通年) HR、委員会、学校行事や部活動等を通じて、生徒がリーダーシップを発揮する機会を創出する。(通年) SC・SSW、家庭や外部機関と連携し、多様な生徒の状況に丁寧に対応する。(通年) 	<ol style="list-style-type: none"> 事故・苦情・指導対象者の減少。(前年度比) ①学校行事等における充実度等9割以上。(生徒アンケート) ②リーダーシップを発揮する機会を得た生徒7割以上。(生徒アンケート) ③SC・SSW、家庭や外部機関と連携の状況。 	<ol style="list-style-type: none"> ①自転車事故6件(前年度と同数)、苦情5件(前年度7件)、指導件数2件(前年度8件)であった。 ①学校行事等における充実度は、生徒90.1%。本校に入学してよかったと回答した生徒は88.2%、保護者は95.2%であった。 ②リーダーシップを発揮する機会を提供されていると感じた生徒の割合は84.2%、保護者は79.9%。 ③SC等の教育相談を利用した生徒・保護者数48件(12月現在)。先生に相談しやすいと回答した生徒は74.2%、保護者63.7%。 	<p>A A A</p> <p>●課題 ・生徒が高い規範意識を持って行動し、登下校も含めた学校生活を安心・安全に送れる環境を維持する。 ・様々な事情・状況を抱えた生徒一人一人に対応した、きめ細かな教育支援体制を構築する。</p> <p>◎改善策 ・分掌・学年・委員会等で情報共有を密にして連携・協働し対応する。 ・各学年・分掌と連携して教育相談体制をさらに充実する。</p>
3	<p>【現状】 本校の取組について校内外から複数回のフィードバックを得て、教育活動の改善に努めている。また、国際交流にも意欲的に取り組んでいる。さらに近隣校と連携を密にして地域に根差した進学校を目指している。</p> <p>【課題】 国際交流やPTA・後援会との連携・協働を強化する。また、学校説明会等の計画・実施方法を精査し、より効果的な生徒募集に努める必要がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 校内外からのフィードバックを生かした学校経営を行う。 国際交流の充実を図る。 効果的で的確な生徒募集を実施する。 各種広報媒体を活用し、本校の教育活動を校内外に広く発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> 様々なフィードバックを精査し、教育活動の改善に生かす。(通年) 海外研修や留学生の受け入れ、外部機関との連携を図る。(通年) 教務部を司令塔とした全教職員による生徒募集を実施する。(4～2月) HPをはじめ、PTA広報誌や学習塾の媒体等を利活用する。(通年) 	<ol style="list-style-type: none"> フィードバックを生かした教育活動の改善の件数。(前年度比) ②海外との交流、外部機関との連携の状況。(前年度比) ③学校説明会、学校見学会等の実施状況及び入試倍率の向上。(前年度比) ④HPの更新状況、公式インスタグラムの開設及び更新状況、校内外の媒体利用状況。(前年度比) 	<ol style="list-style-type: none"> ①様々な意見・要望を踏まえ、必要に応じて業務改善に努めている。 ②従来のニューズレイド語学研修や外国人日本語教師研修の受入の他、SSHシンガポール派遣(3月予定)を実施。 ③学校説明会4回、ミニ学校説明会4回。参加者は約3000名。アンケートによる満足度は98%。10月1日現在、普通科1.55倍(前年度1.53倍)、理数科1.53倍(前年度1.63倍)。 ④HP更新100回以上、保護者あて一斉メール100回以上、Instagramフォロワー数は3000を超えた(12月現在 昨年度1950)。 	<p>B A A A</p> <p>●課題 ・今年度できなかったフィードバックについては次年度へ引き継いでいく。 ・来年度以降海外研修に関する代金の値上がりや受け入れ態勢の変化等が予想されるため、さらなる情報収集が必要である。 ・質の高い生徒募集・広報活動を継続して、生徒確保に努める。</p> <p>◎改善策 ・今年度行った新たな取組みの成果を振り返るとともに、次年度の取組をブラッシュアップする。</p>
4	<p>【現状】 理数科設置から10年が経ち、昨年度よりSSH指定校の認定を受けている。今後は、探究活動の充実を目指した事業計画等に従って、科学的で探究的な学習活動を推進していく。</p> <p>【課題】 SSH事業に係る事務処理や事業計画の遂行等を滞りなく行い、SSH事業を生徒に資するように運営・実施する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 教科等横断・融合型授業を開発し、実践の成果物等を校外へのアウトリーチを行う。 1・2学年の探究的な学習活動に係る科目の計画・実施・評価等を開発する。 3学年の課題研究の質的向上を図る。 大学・研究機関等、所沢市等との連携・協働を行う。 世界的な課題解決を志す資質・能力育成のためのプログラム開発を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 「SSコラボレーション」の計画・実施・評価方法を検証・証改善し、より効果的に校外へ発信する。(通年) 「理数探究基礎」「SS探究I」の授業内容・評価の検証・改善を行う。(通年) 「理数探究」における課題研究の指導と評価の改善を行い、SSH生徒研究発表会に発表者として参加する。(通年) 関係機関との連携・協働を密に行い、新規事業等を企画する。 SSH海外研修等を目指す生徒を増やす。 	<ol style="list-style-type: none"> 「SSコラボレーション」の実施及び評価方法の開発状況。 「理数探究基礎」「SS探究I」の実施状況。(前年度比) ③課題研究の質的向上の状況、SSH生徒研究発表会への参加状況。 ④関係機関との連携・協働の状況、新規事業等の実施状況。(前年度比) ⑤SSH海外研修の実施状況。 	<ol style="list-style-type: none"> ①SSコラボについて、教科を横断したリレー・コラボは11走、二つの教科融合型授業であるユニット・コラボは5講座10コマを開発・実践。 ②「SS探究I」の評価には多くの教員が携わり、評価方法を改善した。 ③課題研究の評価を組織的・計画的に実施した。SSH公開授業において外部からの参加者は50名を超えた。 ④東京大、慶應大、早稲田大、所沢市等大学、研究機関との連携・協働の機会を継続した。 ⑤SSHシンガポール海外派遣研修を実施(3月予定)。 	<p>A A A A</p> <p>●課題 ・課題研究や探究的な学習活動に係る科目の評価計画・方法を見直し、評価の信頼性と妥当性を向上させる。 ・SSH海外研修の質の向上に努める。</p> <p>◎改善策 ・「SSコラボレーション」「SS探究I」「SS探究II」「SS課題研究」「理数探究」の実施計画及び評価方法の改善を継続的に行う。 ・SSH海外研修の先行・研修内容等の見直し・改善を継続する。</p>

学校関係者評価	
実施日	令和8年 3月19日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○休日の学習時間が昨年度より伸びたのは良い傾向ではないか。	
○設定した目標値と生徒・保護者に対するアンケート結果の数値が乖離している。学校の掲げる目標値が高すぎるのではないか。	
○目標値の「見える化」をはかり、生徒や保護者に、より周知させた方がよい。	
○ずいぶん辛めに評価している。一方で進路実績は上昇。学習時間以外に実績を上げる要因があるのではないか。	
○学習時間が足りない原因について調査するなど、対策を立てるとよい。	
○生徒指導に関しては評価が高いが、さらに交通規範について指導を徹底して、交通マナーをより身につけていただきたい。	
○SCについて相談が多いのがいいのか、少ないのいいのかは悩ましいところ。学校が相談しやすい環境にあることは良い。	
○今年度の共通テストを考察すると、全体を把握して、次に何が起こるのか予想する読解力が国語だけでなく他教科でも求められており、少しずつ表現力を重視する傾向にある。そうした能力を磨く機会となる海外交流等は大切である。	
○学校側が精一杯頑張っって広報活動に取り組んでいる様子が伝わってきた。	
○課題研究・探究的な学習を重視しているのに主体的に学ぶ意欲向上につながった生徒が6割しかいないのが気になる。意欲を掻き立てるには探究に向かっていくマインドを育むのが大切。	
○思考力を問う入試が増えている昨今、理解力・表現力が身につく探究は重要。探究活動の大切さを生徒にきちんと示すべきである。	